2012年12月16日

読者様

鹿児島県立短期大学
宗田健一

この度は，拙稿の問題をお使いいただきまして，誠にありがとうございました。問題を作成いたしました，鹿児島県立短期大学の宗田と申します。

お問い合わせいただきました以下の件に関しまして，ご説明申し上げます。紙幅の関係などで十分にご説明できませんでしたことをお詫びいたしますとともに，追加の説明をさせていただきます。また，ご不明な点がございましたら，再度，ご連絡いただけましたら幸いです。

【ご質問内容】

会計人コース 2011.8 号のｐ79～80 における期末仕掛品、製品のそれぞれの材料費、加工費の数値について詳述していただけると幸いです。
具体的には、

・期末仕掛品投入加工費　296,450 千円
・期末製品当期完成品投入材料費　413,600 千円
・当期完成品加工費　310,400 千円

等の数値根拠が分からず悩んでおります。できましたら図解等していただけるとさらに有難いです。
初歩的な質問で申し訳ありませんが、どうかよろしくお願いいたします。

【ご回答】

ご質問は上記３つの金額の数値根拠ということですので，順番にご説明いたします。図解に関しましては，2011 年 8 月号の 84 ページをご覧いただきたいと思います。数値根拠に関しましては，計算式をお示しいたしますので，図とともにご確認ください。

・期末仕掛品投入加工費　296,450 千円について
まず, 期末仕掛品投入加工費　296,450 に関してご説明申し上げます（以下, 単位：千円）。
計算式で示しますと，以下の通りです。

期末仕掛品投入加工費　296,450＝工場労務費　112,310　＋　工場製造経費　168,465
＋製造経費　14,475　＋　未達の福利厚生施設負担額
1,200

まず，工場労務費　112,310 に関してですが，これは，〔資料１〕決算整理前残高試算表（借方，工場の欄，労務費）でご確認ください。

次に，工場製造経費　168,465 に関してですが，これも，〔資料１〕決算整理前残高試算表（借方，工場の欄，製造経費）でご確認いただけるかと思います。

次に，製造経費　14,475 に関してですが，81 ページの「４　工場の決算整理事項　(2)減価償却」をご覧ください。金額の計算過程は，仕訳とともに示しておりますので，ご確認いただけるかと思います。ここでのポイントは，資料７より，「工場の減価償却費はすべて製造原価（製造経費）として処理する」という点に注意していただくことです。

最後に，未達の福利厚生施設負担額　1,200 に関してですが，これは，資料２の①でご確認ください。

以上の金額を合計いたしますと，296,450 となります。

＊ポイント＊

計算する際は，資料のいたるところに必要とする金額（今回の場合は，加工に必要な金額）が散らばっておりますので，それらにご注意いただければ幸いです。

・期末製品当期完成品投入材料費　413,600 千円について

２点目の期末製品当期完成品投入材料費　413,600 千円に関してご説明申し上げます（以下，単位：千円）。

計算式で示しますと，以下の通りです。84 ページの図も同時にご覧いただけると，計算過程がよくわかるかと思います。

期末製品当期完成品投入材料費　413,600＝期首仕掛品材料費　77,550　＋　当期投入　361,900　－　期末材料　25,850

この計算過程でお分かりの通り，当期完成材料　413,600 は，逆算で求めております。

まず，期首仕掛品材料費　77,550 ですが，これは，資料４の②の(1)材料費をご覧いただければ確認できます。

次に，当期投入　361,900 は，（工場）材料で計算済みの数値を用いますので，ご確認ください（81 ページの図では，矢印で示しております）。

最後に，期末材料　25,850 に関しては，計算が必要です。計算式は以下の通りです（期末仕掛品評価額の算定については，79 ページの右組上から４行目以降で示しておりますので，合わせてご覧ください）。

期末材料　25,850＝当期投入 361,900　÷　当期投入量 70,000 個　×　期末材料　5,000 個

当期投入 361,900 の額を当期投入量 70,000 で除していますが，この 70,000 個は，資料４の①製造に関する資料，で確認いただけます。また，期末仕掛品 5,000 個についても，同じところでご確認いただけます。

＊ポイント＊

当期完成を求める際に，逆算が必要である点，FIFO を使っている点にご注意いただければ幸いです。資料４の③にもありますとおり，「材料は製造工程の最初の段階ですべて投入しており，期末仕掛品の評価は先入先出法による」という点を見落とさないようにしてく

ださい。

・当期完成品加工費　310,400 千円について

３点目の当期完成品加工費　310,400 千円に関してご説明申し上げます（以下，単位：千円）。計算式で示しますと，以下の通りです。84 ページの図も同時にご覧いただけると，計算過程がよくわかるかと思います。

当期完成品加工費　310,400＝期首仕掛品加工費　25,500　＋　当期投入 296,450　－　期末加工　11,550

この計算過程でお分かりの通り, 当期完成品加工費　310,400 は, 逆算で求めております。

まず，期首仕掛品加工費　25,500 ですが，これは，資料４の②の(2)労務費　10,200 と(3)製造経費　15,300 をご覧いただければ確認できます（合算額です）。

次に，当期投入　296,450 は，ご質問の１つ目でお答えした計算過程で算出します。

最後に，期末加工　11,550 に関しては，計算が必要です。計算式は以下の通りです。

期末加工　11,550＝当期投入　296,450　÷　当期投入量 77,000 個　×　期末加工 3,000 個

当期投入　296,450 の額を当期投入量 77,000 で除していますが，この 77,000 個は，79 ページの２の(a)の②期末仕掛品の評価（先入先出法）をご覧ください。ここでは，加工費の計算過程を示しておりますが，その中の＊１において 77,000 個の計算過程を示しております。

期末加工 3,000 個に関しては，資料４の①の期末仕掛品（加工進捗度 60%）を用いて求めております。3,000 個＝5,000 個×60%で計算できます。

＊ポイント＊

当期完成を求める際に，逆算が必要である点，FIFO を使っている点にご注意いただければ幸いです。資料４の③にもありますとおり,「材料は製造工程の最初の段階ですべて投入しており，期末仕掛品の評価は先入先出法による」という点を見落とさないようにしてください。

期末加工の数量計算でも，加工進捗度（60%）などが資料で示されております。同様に，期首仕掛品に関しても，加工進捗度（40%）が示されています。ここを見落としてしまいますと，逆算で計算ミスしますので，注意してください。

＊全体を通してのポイント＊

全体を通じて言えることは，数値や個数，それらの計算において，資料の各所を確認していただく必要があります。問題文を確認して，資料を読み込む際に，どの計算でその資料を必要とするのかについて，メモ書きしたり，印をつけたりされると，見落とし，計算ミスを防げるかと思います。

この問題を通して，読者様の学習が少しでも進みましたら，執筆者として幸甚です。どうぞ，今後ともよろしくお願いいたします。